

5大がん検診を受けられる前に

大腸がん・肺がん・胃がん・乳がん・子宮頸がん

葛城市の行っている5大がん検診は、健康増進法により厚生労働省の指針に基づいて行っており、有効性の確立した検診です。

5大がんは、いずれも日本人のがん死亡の上位に位置しますが、市町村でのがん検診はがん死亡率の低下を目的とし、予防対策（対策型検診）として実施しています。

（葛城市ではこの他独自の取り組みとして前立腺がん検診（PSA検査）を行っています）

知ってナットク

がん検診のメリット・デメリット

メリット

早期発見・早期治療

自覚症状がない状態で検診を受けているので、がんが進行していない状態で発見すること。早期発見・早期治療で90%が治ります。

デメリット

偽陽性

がんの疑いがあると判定されて精密検査を受けても、がんが発見されないこと。

偽陰性

がんを見逃してしまうこと。がんが見つげにくい場所や分りにくい形をしている場合は発見できない場合もあります。（ただし受け続けることでがんが発見される確率が上がり、結果としてがんによる死亡を避けることになります。）

過剰診断

生命を脅かすことのないがんを見つけること。現在の医療ではどのがんが生命を脅かすのか完全には分からないため、早期治療を考えると通常の検査やがん治療がおこなわれることがあります。

ポイント

100%の精度をもつがん検診はありませんが、有効性の確立した検診をきちんと受け続けることで、がん死亡のリスクを軽減します。

また、症状があれば医療機関の受診が重要です。

国の推奨するがん検診は、総合的に見て、メリットがデメリットを上回る手法をとっています。

がん検診で大切なこと ～精密検査が必要といわれたら～

葛城市の行うがん検診で「精密検査が必要」と判断された場合は、必ず受診してください。一見健康な人に対して「異常あり（がんがありそう）」「異常なし（がんがなさそう）」と判定し、「ありそう」とされる人を精密検査で診断するのががん検診です。途中で精密検査や治療を受けない場合は、**がん検診の効果はなくなってしまいます。**

精密検査について

それぞれのがん検診の精密検査の方法は以下のとおりです。結果に同封される奈良県医療機関リストを参考に受けてください。

検診項目	精密検査の内容
大腸がん	・原則、全大腸内視鏡検査（カメラをおしりから入れ、大腸全体をみる） ・上記検査が困難な場合、S状結腸内視鏡検査（おしりからカメラを入れ、おしりからS状結腸（約50cm）までをみる）と注腸エックス線検査（おしりからバリウムと空気をいれ、大腸のエックス線撮影をする検査）併用を実施 など
肺がん	・胸部CT検査（エックス線で胸部の断層写真を撮影） ・気管支鏡検査（気管支の中を観察し細胞を採って詳しく調べる） など
胃がん	・内視鏡検査（カメラを鼻か口から入れて調べる）など ・生検（組織を切り取って調べる）
乳がん	・マンモグラフィ検査（乳房のエックス線撮影）の追加撮影 ・乳房超音波検査 ・穿刺吸引細胞診（細胞をさらに詳しく調べる検査） ・針生検（細胞をさらに詳しく調べる検査） など
子宮頸がん	・コルポスコープ（という名前の拡大鏡を使ってさらに詳しく調べる検査）による組織診（組織を切り取って調べる）や細胞診（ブラシ等で組織をとって調べる）、HPV検査（原因となるウイルスに感染しているかどうかを調べる）など

ポイント

精密検査で異常なしの場合は、次回の検診を受けてください。がん以外の病気が指摘されたり経過観察が必要となった場合は、次回の検診を受ける時期について担当医の説明、指示に従ってください。

参考サイト：がん情報サービス ganjoho.jp、知っておきたいがん検診－日本医師会－

個人情報の取り扱いについて

- ・がん検診に関する問診票に記載された内容及びその結果等の個人情報は医療機関と葛城市健康増進課で共有します。
- ・精密検査を他の医療機関へ依頼した場合は、その結果等も検診実施機関と葛城市健康増進課で共有し、精度管理の向上に役立てます。
- ・葛城市健康増進課は報告された個人情報を各種保健事業への活用及び動向資料として使用します。
- ・葛城市健康増進課に提供された個人情報を、上記以外の目的に使用することはありません。